現代美術レジデンスプログラム　橋を渡す　柄澤健介

会　　期：2025 年 9 月 20 日（土）～10 月 19 日（日）〈32 日間〉
会　　場：企画展示室、美術工芸展示室、展示ホール
展示点数：彫刻作品　計 11 点
観 覧 料：無料
入場者数：1,221 人

【内容】

「芸術と自然」をテーマに開館以来、継続している現代美術レジデンスプログラムでは、作家による滞在制作とその成果発表として展覧会を行う他、作家と市民の交流の場としてワークショップなどを毎年開催しています。今年度は愛知県在住の作家・柄澤健介（1987 年～）を紹介しました。

作家は登山をはじめ、自然に身を置く体験から山河のイメージを木彫で表現します。素材にはクスノキの丸太を用い、チェーンソーを使って彫り込みます。一塊の木から出現させた線と面、表裏の関係性、複雑な造形を様々な角度から眺める時、眼の前の風景はめくるめく展開していきます。連なる山の稜線、切り立つ崖、深い谷間。窪みの部分に流し込まれた乳白色のワックスは、氷河の冷気や水の深度を連想させます。柄澤健介の作品は、大地と地底を一時に見るような不思議な体感を観る者に抱かせます。

近年、作家はこうした木彫にフレーム状の鉄を組み合わせた空間構成を模索しています。そして自然との関係性の中で人が生み出す造形について思いを巡らせ、自然の中で生きるために人が作る建築物を「自然」と言わないのは何故か、と問いかけます。

今回の展覧会に向けて作家は夏の約 1 か月半の間、当館のアトリエ棟に宿泊滞在しながら新作を制作しました。彫刻と鉄の構造物で成り立つ自身の作品を谷間に架かる橋のイメージに重ね、人と自然と芸術の関係性について考察します。山と山の間に一本の橋を渡すような、人間の建築的な営みを自然と捉え直す柄澤健介の新しい試みは、「芸術と自然」の定義を広げるものとなったことと思います。

【関連事業】

□オープンスタジオ
8 月 23 日（土）　9:00～17:00　10:00～11:00　アーティストトーク　参加者：24 人
講　師：柄澤健介氏　　会　場：別棟収蔵庫　工房、宿泊アトリエ棟

□アーティストトーク
9 月 20 日（土）　13：00～14:00　参加者：38 人
講　師：柄澤健介氏　　会　場：企画展示室・美術工芸展示室・展示ホール

□ワークショップ「景色の発掘」
10 月 5 日（日）　13:00～16:00　参加者：11 人
講　師：柄澤健介氏　　会　場：陶芸室

【刊行物】

記録集「柄澤健介　橋を渡す」A5 判　16 ページ　2026 年 2 月 26 日発行　販売価格 400 円

【展示品】　　＊所蔵は全て作家蔵

1	Vessel	木、パラフィン、胡粉	2023-24 年	H160×W1125×D610mm
2	橋を渡す〔建築－鉱物〕	木、鉄、箔	2025 年	H1270×W740×D4495mm
3	肌理と稜線	木、鉄	2024 年	H2095×W1070×D905mm
4	稜線と肌理	木、鉄	2024 年	H1230×W1360×D3070mm
5	橋を渡す〔しつらえ〕	木、鉄、パラフィン、胡粉	2025 年	H2190×W4500×D1230mm
6	淡洸	木、パラフィン、胡粉	2023 年	H1160×W700×D645mm
7	落下と共振	木、パラフィン	2022 年	H655×W445×D220mm
8	分水嶺	木、パラフィン	2021 年	H1245×W300 ×D300mm
9	道	木、パラフィン、鉄	2023 年	サイズ可変
10	変わらぬ地平	木、パラフィン、胡粉	2025 年	H220×W430×D305mm
11	氷洞	木、パラフィン	2025 年	H100×W450×D255mm

【所感】

展覧会場には柄澤健介が近年取り組んできた大作と、当館での滞在制作による新作を展示した。

滞在制作は 8 月 5 日から始まった。その前日、作家が普段使っている作業台や工具と共に材料のクスノキの丸太と展示作品の一部がスタジオ（別棟収蔵庫 1 階）に搬入された。倉庫部分に棚を設え、工具を並べ、作業場となる中央部分に板を敷き、小型のチェーンソーを使った小品の制作に着手した。8 月 12 日からは大きな丸太を使った作品に着手した。構想段階で詳細な図面を描くことはなく、彫りながら細部の形を考えるという作家は木の前に立ち、刃に見立てた手のひらを幾度も返しながら考え、木の深部を幾何学的にえぐり出していった。作家はその手応えを「地底の鉱物を形作るような感覚に近い」と語った。スタジオでは彫刻を支える鉄の構造体も自ら設計して切断し、溶接して組み立てる工程も並行して行われ、夜間にはアトリエで細部を仕上げる作業などが続けられた。こうした制作は展示作業と並行して 9 月 6 日－18 日まで続けられ、新作《橋を渡す〔建築―鉱物〕》《橋を渡す〔しつらえ〕》、《変わらぬ地平》《氷洞》の計 4 作品が完成した。

《橋を渡す〔建築―鉱物〕》は、当館の屋根の形を模して作り始めた新作で、2 点の木彫を両端に配した鉄の構造体は橋を想起させる。建築と鉱物、人と自然の造形を掛け合わせることで、人と自然と芸術との「橋渡し」を試みたもの。《橋を渡す〔しつらえ〕》は鉄のアングルを溶接して作った二つの棚の形状の構造物の上に、今までに制作してきた小品を再構成したものである。

美術工芸展示室では、愛知県の矢作川から着想を得て制作した愛知県西尾市での現代美術展への出品作《道》を展示。企画展示室に配置された、複雑に削り出された地肌と稜線を描く木彫が幾何学的な構造体によって中空に浮かび、仰ぎ見る視点と俯瞰の視点から体験する対作品《稜線と肌理》《肌理と稜線》とともに、鉄の構造体と木彫を組み合わせて空間を凌駕する近年の柄澤健介の試みを一堂に眺められる機会ともなった。全体の展示構成は土方大氏の協力により、空間の広さを生かすよう点数を最小限に絞り、全体照明を使わずスポットライトのみで作品の表情を引き出す手法を採った。森の木立が見えるガラスに面した展示ホールには新作の小品《変わらぬ地平》《氷洞》を展示した。

関連企画として、会期に先立ち作家の制作現場を見学するオープンスタジオを開催した。宿泊滞在したアトリエとスタジオの二会場で制作の経過を知る機会となった。最後にスタジオに戻り、チェーンソーで木を彫る様子も実演、参加者は展覧会に向けて制作する作家の姿を目の当たりにした。また会期中に行ったワークショップでは、作家が準備した蝋を流し込んだキューブ型のクスノキを素材として、鑿やのこぎりで削り出す彫刻に参加者が取り組み、作家の制作を追体験した。（和歌由花）

〔滞在制作　8 月 12 日〕

〔滞在制作　9 月 11 日〕

〔企画展示室〕手前は滞在制作による《橋を渡す〔建築―鉱物〕》

〔企画展示室〕右は滞在制作による《橋を渡す　〔しつらえ〕》

〔美術工芸展示室〕《道》

〔展示ホール〕9 月 20 日　柄澤氏によるアーティストトーク

〔関連企画〕8 月 23 日　オープンスタジオ

〔関連企画〕10 月 5 日　ワークショップ「景色の発掘」

【アンケート結果】　（全 40 枚・複数回答あり）

選択設問から

①展示を見て今の気分は(人)

・心が安らいだ	25
・心がざわざわした	5
・心が躍った	9
・力強さを感じた	5
・美しいと感じた	26
・驚いた	6
・怖いと感じた	0
・不思議な世界だ	7
・悲しくなった	0
・わけがわからなかった	3
・ずっと見ていたい	11
・見なくても良かった	1
・その他	2
	計 100

②展示を見て思ったこと（人）

・こういう表現があるんだ	18
・作家の発想は豊かだ	21
・とても気になる作品があった	11
・作家のことを知りたくなった	11
・作家の意図するものがほとんどわからない	2
・素材や作り方に興味を持った	20
・展示空間全体を楽しめた	27
・自分の考え方には合わないと感じた	0
・自分の固定概念が崩れた	1
・疑問が湧いた	3
・その他	2
	計 116

③発想・発展（人）

・日ごろの色々な事を忘れることができた	11
・形から何かを想像した	5
・誰かに話したくなった	12
・思い出すような体の感覚があった	10
・自分の日常について思いをはせた	7
・作品から何かを連想した	9
・思い出す風景や事柄があった	14
・美術への関心が高まった	13
・時事的なことに思いをはせた	3
・何かを作ったり、表現したくなった	12
・もう一度見たいと思った	11
・作家の他の作品も見たいと思った	16
・世界の平和について考えた	1
・制作現場を見てみたいと思った	7
・その他	3
	計 134

自由記述から

・CC ネットのフォレストチャンネルで見ました。これからもいろいろな彫刻を色々な物で作ってくださいね。
・作品についての名前を、展示品の前に入れておいてほしい。
・すばらしい作品ばかりだった。
・作品を鑑賞でき、いやされました。
・ここ2、 3 年みのかもに来ていますが一番いい展示でした。
・鉄のフレームが欲しいと思った。クスノキを使った理由は？
・空間に木を感じることで、いやされました。
・作っているところがみてみたい。VTR があればよかった。
・進化し続けている表現　これからも楽しみにしています。
・豊田市もみたい。
・素敵な場所でした。
・見に来てよかったです。木彫りをしたくなりました。
・とてもよい展覧会で感動した。いつも案内ありがとうございます。
・作家の想像力がすばらしいと感じました。
・大きな作品をみるのが初めてだったので、とても迫力を感じたし、新鮮だと思った。
・木と鉄の融合　今後の作品を見てみたいと思いました。
・8/23（土）PM のオープンスタジオに偶然通りがかり、作者の方に説明いただいた夫婦です。作品展も見たくなりおじゃましました。じっくり見て色々考えたくなる作品でした。ありがとうございました。
・お洒落な素敵空間で良い匂いがしていやされました。大胆であり繊細な作品で格好よかったです。
・チラシで気になっていて、＆近くの用事で時間ができて寄りました。無料で入れてびっくりです。（こんなに環境のいい展示室！！） 矢作川の作品、上流の方へ寄ると自分が地層の中に入った感覚でした！！よかった。
・制作意図が伝わってきて、制作意欲がわいてきました。ありがとうございました。
・とにかくすごい！美しい！非日常かと思いきや私たちの身近にある美を感じさせてくれる素敵な空間、時間でした。
・先生独特の表現方法がとても興味を惹いた。木材（クスノキ） を異素材が上手く調和して一つの作品となっている。観に来てよかったと思う。ダイナミックで大胆でオリジナリティもあり面白い！
・６（淡洸）は何度みてもその時々で違う印象を感じる。力強く思えたり、優しく包み込んでくるようだったり、安心感をあたえられたりと。
・木、鉄、パラフィン等の素材を無理なく使っていると感じた。有限性からの出発。素材を作家の行為とその結果としての造形との関係性が気持ちよく心に届いてきた。素晴らしい展覧会でした。
・チェンソー作品はもっと荒々しいと想像していた。見事に裏切られた。
・稜線が何と美しいことか。繊細で心休まる作品。大好きになった。
・家の玄関にほしい。素敵な作品をありがとうございました。